

活用アクションプログラム等の進捗状況について

1. 「認識度を向上させる取り組み」の進捗状況

(1) 地元報道関係機関並びに企業広報担当部局と連携しつつ、新聞、ミニコミ・タウン誌等による連載などの手法で「人と暮らしの伊那谷遺産」の認識度向上を図る。

①中日新聞社による記事掲載

a. 中日新聞(朝刊)の紙面で連載記事掲載が5月24日より始まり、次のとおり20件の伊那谷遺産が紹介された。

掲載月日	伊那谷遺産の名称	見出し文
5月24日	座光寺石川除	存在感ある石積み整然
5月31日	入舟船着場	街道の物資運んだ要所
6月 6日	名古山の水除け	土地守った知恵の証し
6月13日	伝兵衛五井	水利事業に大きな功績
6月20日	六地蔵と三界萬靈塔	激流沈めるかのまなざし
6月27日	御子柴艶三郎による井戸	私財かけて水脈を発見
7月 4日	川路郷家屋移転記念碑	「三六災害」復旧祝い建立
7月11日	三六災最高水位標	今も昔も自然猛威感じる
7月18日	大西山崩壊地	豪雨の爪痕今も山肌に
7月25日	四徳集落跡	「三六災害」古里”奪う”
8月 1日	小渋橋	土石流しのぎ不変の姿
8月 1日	濁流の子(出版物)	子がつづった「三六災害」
8月 8日	さんよりこより	健康を願い竹で鬼退治
8月17日	惣兵衛堤防	巨石に宿る治水の祈り
8月22日	千人塚公園と城ヶ池	戦国と今つなぐ懸け橋
8月29日	遠山の埋没林	いにしえの地震”証言”
9月 5日	霞堤	洪水調節 豊かな土守る
9月12日	姑射橋	中国の古代伝説に由来
9月19日	大橋	今も昔も行き交う人々
9月26日	河原弁天	村境争いで「大岡裁き」

②長野日報社による記事掲載

a. 長野日報(朝刊)の紙面で連載記事掲載が7月2日より始まり、次のとおり12件の伊那谷遺産が紹介された。

掲載月日	伊那谷遺産の名称	見出し文
7月 2日	大橋	東西の暮らしをつなぐ
7月 9日	伊那街道	中馬がつないだ運送の道
7月16日	旧深沢川水路橋	役割終え生活道路に転用
7月23日	北川集落跡	土石流で埋もれた集落
7月30日	伝兵衛五井	三峰川の水で農業支える
8月 6日	大西山崩壊地	桜咲く「憩いの場所」に
8月13日	北の城橋	朱色のつり橋 桜と共に演

8月27日	大久保発電所	天竜川本流せき止め建設
9月3日	小渋橋	三六災害乗り越え集落結ぶ
9月10日	御子柴艶三郎の井	水争いに心痛めて開削
9月17日	霞堤	”霞たなびく”自衛堤防
10月1日	諏訪形の猪垣	野生動物から農作物守る

③小渋川砂防出張所の事業広報誌による記事掲載

- a. 事業広報誌(くろゆり通信)の紙面で連載記事掲載が2月発行版より始まり、次のとおり7件の伊那谷遺産が紹介された。

掲載月日	伊那谷遺産の名称
2月発行版	該当なし(伊那谷遺産を説明する記事)
4月発行版	上戸砂防堰堤
5月発行版	大西山崩壊地
6月発行版	小渋橋
7月発行版	北川集落跡
8月発行版	鳶が巣大崩壊地
9月発行版	地蔵峠

④遠山川砂防出張所の事業広報誌による記事掲載

- a. 事業広報誌(カモシカ通信)の紙面で連載記事掲載が4月発行版より始まり、次のとおり6件の伊那谷遺産が紹介された。

掲載月日	伊那谷遺産の名称
4月発行版	該当なし(伊那谷遺産を説明する記事)
5月発行版	名古山の水除け／泰阜ダム
6月発行版	遠山の埋没林／平岡ダム
7月発行版	夜川瀬地区の氾濫／河原弁天
8月発行版	三信鉄道
9月発行版	三六災最高水位標

⑤その他

- a. 1月29日より、「ビューポイント募集」のチラシ及びポスターを関係部局に配布すると共に、事務局のウェブサイト等を活用した広報活動を展開した。
- b. 「天竜川総合学習館かわらんべの広報誌」の6月発行版で伊那谷遺産が紹介された。
- c. 7月3日に放送された「SBCラジオ放送 坂ちゃんのすくだぜえぶりで い伊那谷めぐりあい」に事務局が出演し、プロジェクトの説明をした。
- d. 7月27日に開催された「かわらんべ祭り」の展示コーナーで、パネル展示を実施した。
- e. 8月24日に開催された「フェスティバル in 与田切」でパネル展示を実施した。

2. 「情報プラットフォームの整備」の進捗状況

(1) 「人と暮らしの伊那谷遺産の説明資料(個票)」を作成する。

①第3回選定委員会(3月18日)終了後に、第2回選定委員会(1月29日)で選定した48件の説明資料(個票)を公開した。

②第3回選定委員会(3月18日)で追加選定した31件の説明資料(個票)は、各関係機関等に意見照会し、第4回選定委員会後に公開を予定している。

(2) 高遠ぶらり制作委員会と連携しつつ、アプリ「高遠ぶらり」に「人と暮らしの伊那谷遺産」に関する情報をアップデートし、参加型プロジェクトの検討及び実現を促進させる。

①選定の対象地域を含む伊那谷全域とこれを2分割(上伊那地域と飯伊地域)したリアルな鳥瞰図を作成した。

②今後、各伊那谷遺産の位置情報や説明文等を整理し、アプリ「高遠ぶらり」のアップデートの調整を予定している。

(3) 「人と暮らしの伊那谷遺産」を集積させる、又は進化させることができるような仕組みを整備する。(「伊那谷遺産デジタルコモンズ」の構築)

①事務局のウェブサイトに「伊那谷遺産デジタルコモンズ」のページを4月25日に開設した。

一次データ(基礎資料)

資料の種類
「説明資料(個票)」
「説明資料(個票)」を参照するためのQRコード
「選定委員会HP」を参照するためのQRコード
「Google 地図情報」
「Google 地図情報」を参照するためのQRコード

二次データ(コンテンツ)

資料の種類
くろゆり通信
カモシカ通信
広報誌かわらんべ
中日新聞 連載記事
長野日報 連載記事
長野日報 連載記事に掲載された水彩画

②事務局のウェブサイトに「ステレオ写真ギャラリー」のページを4月8日に開設した。

公開したステレオ写真

公開月日	伊那谷遺産の名称
4月 8日	理兵衛堤防
4月 25日	三峰川の霞堤

4月 25日	坂戸橋
5月 22日	三界萬靈塔／六地蔵
5月 22日	さんよりこより（川手の天伯社、桜井の天伯社）
5月 22日	泰阜ダム
6月 3日	座光寺石川除
6月 3日	千畳敷カール
6月 14日	大西山崩壊地
7月 9日	小渋橋
7月 19日	大橋
7月 19日	伝兵衛五井
8月 2日	小渋ダム

3. 「伊那谷遺産を巡るガイドツアーの開催」の進捗状況

(1) 伊那谷遺産を活用した「三峰川沿川ガイドツアー」の開催

- ①三峰川沿川は、水害や土砂災害に適応し、水の恵みとふれあうことができるようにしてきた先人の足跡を数多く垣間見ることができることから、既に伊那谷遺産に選定されているもの以外の地域資源を含めて、この地域の先人の足跡を網羅的に説明できるように配慮することとした。
- ②今後、実施主体の「三峰川みらい会議」などとの協働作業により、ガイドツアーを実施するために必要となる次の2つのツール開発を予定している。

- a) 三峰川沿川のリアルな鳥瞰図を背景図とするガイドマップ
- b) 各地域資源を解説する資料

(2) 伊那谷遺産を活用した「かわらんべ講座」の開催

- ①「天竜川総合学習館かわらんべ」が実施している「かわらんべ講座」で伊那谷遺産を活用した講座を次のとおり企画した。

- a) 6月29日 ~三六災害の遺産を訪ねる~
 - ・三六災害の記憶を風化させないために企画したツアーで、「三六災最高水位標」や姑射橋を紹介。
- b) 10月24日 ~写真講座~
 - ・伊那谷遺産を巡り、写真撮影を行う。受講生が撮影した写真を活用して、写真展「かわらんべ写真講座が撮る伊那谷遺産」も計画中。
- c) 10月5日 ~ダムや発電所の見学~
 - ・車窓から坂戸橋及び理兵堤を紹介。
- d) 11月3日 ~駒ヶ根高原で遠足~
 - ・千畳敷カール、田切地形、太田切川井筋を紹介。
- e) 11月21日 ~かわらんべウォーキング~
 - ・姑射橋、時又港、三六災最高水位標を紹介。
- f) 12月8日 ~教えて！河川工のこと~
 - ・理兵衛堤防か惣兵衛堤防、座光寺石川除を紹介。